

前芝中学校通信

～校長室の窓から～

豊橋市立前芝中学校

第 102 号

H29. 9. 1

充実の第Ⅱ期 『チーム前芝』でよいスタートを!

『学校通信 第 100 号』でお伝えしましたように、この夏休みは、ハンドボール部の「東三河大会 3 位、県大会出場」という明るい話題で始まりました。また、8 月 6 日には、「トイレ掃除に学ぶ会」や「夏まつり」と会場での募金活動で、生徒たちの輝く姿も見られました。新チームとなったどの部活動も練習に集中して取り組んでいます。

さて本校では、今日から始まる 9 月から 12 月を、実りの秋や、厳しい冬のための蓄えをする“充実の第Ⅱ期”、そして、1 月から 3 月を 1 年間のまとめである“結実の第Ⅲ期”と考えています。ちなみに 4 月から 7 月は“始動の第Ⅰ期” ととらえています。

この第Ⅱ期に、前芝中生の一人一人が、「充実した」「成長することができた」と胸を張って言えるように、学校職員とご家族・地域がより連携を強固にして、子どもたちを導いていきたいものです。ご協力をよろしくお願いいたします。

まずは、来週水曜日からの前期期末テストです。全ての前芝中学生が一心不乱に『中学生の本分としての学習に打ち込むこと』を期待します。そういう取り組みをしてこそ、一人一人が今後役に立つ、自分にあった勉強方法を見つけることもできるといえましょう。生活リズムを規則正しいものに取り戻すとともに、強い意志をもって、メディアにかかわる時間を『1 日 1 時間以内』とし、集中してテスト勉強に打ち込むことを期待します。

竜巻被害への支援に見た、前中生徒の姿

8 月 7 日の竜巻においては、前芝校区で家屋に被害を受けた方々もおおり、心よりお見舞い申し上げます。

そんな中で、がれき拾い等のボランティアを行った生徒たちが何人もいたことに感心し、心から頼もしく思いました。8 日は、13 時 17 分にご家族へのメール配信で募ったにもかかわらず、14 時の集合に 10 数名

ほどの生徒が集まり、朝から自主的に手伝っていた生徒や、この 4 月の卒業生も合わせて約 30 名が、教員 6 名と共に活動しました。被災をされたご家庭や地域の方、自治会の方より、学校に感謝のお電話をいただいたこともお知らせします。わざわざご連絡くださり、子どもたちを激励していただき、ありがたいことだと感じています。



10 日には、ハンドボール部が公道や水路の隅、田んぼに残った瓦や、ガラスの破片を拾いました。また、地域の方のお話によると、12 日には引っ越しを余儀なくされたご家庭の手伝いに参加し、最後まで粘り強く活動した中学生がいたということです。こういう『地域のために役に立つ前芝中生』の姿を嬉しく思うとともに、活動を体験することで、前芝学校の生徒として「ふるさとを愛し、人とかわる力」がついていると、実感しました。

ボランティア活動の時間、高校の体験入学に参加していた 3 年生や、前日の暴風警報で延期した活動に参加していた生徒の皆さんの中にも、「がれき拾いができなくて悔しい」と言っていた生徒がいました。その美しい心にも感激しました。人の役に立つことは、「いつでも・どこでも・小さなことでも・一人でも」できます。今回の生徒の皆さんの行動や言動から、前芝学校の子は、今後も、地域のために進んで活動できると確信しました。



校区・保小中合同防災訓練

9月3日(日) 8時~

校区との合同防災訓練となり、4回目の開催となります。今回は、豊橋埠頭で行われる豊橋市総合防災訓練のサテライト会場としての開催でもあります。市役所防災危機管理課による避難所間仕切り体験、NTT ブースの緊急連絡体験や、建設業協会の仮設住宅見学をはじめ、10 数種の外部のブースの見学や体験もできます。そして、今年度の炊き出しは「赤十字奉仕団」と「豊橋アレルギーっ子の会」によるおにぎりカレーライスの配給です。市役所とりまとめの今年度だけのブースもあるので、このすばらしい機会に積極的に見学や体験をしましょう。また、今年も3年生がブースの企画・運営をします。3年生がブースで、相手に応じた説明を、思いやりのある態度でできることを楽しみにしています。

昨年度に引き続き、中学生は8時の地震発生想定時刻に、各家庭より保護者や地域の方と町内集合場所→高台避難の後、学校に集結します。この訓練のねらいは、次の3点です。

- ① 中学生が地域の方と話をしたり、思いやりのある行動をとったりする。
- ② 中学生が家にいる時の第一や高台の避難場所を知り、実際に起こった時の避難のリーダーとなる。
- ③ 避難訓練をしながら、地震の被害を想定して地域の方々と話し合い、高台や学校までのより良い避難経路と考える。

読売新聞 (8/9 掲載)

けにぶえたり年生の長山藍羅さん(13)と本多天実さん(13)は「田んぼからゴミを運び出しました。重い瓦は運びにくかった」と汗をぬぐった。

本多さんは家内いたら、聞いたことのないような大きな音がして、窓がガタガタと揺れ、停電した。すぐい風だったと振り返った。自宅に被害はなかったが、

「無事だったからこそ、被害に遭った人たちの力にならなければ」と思った。

参加の動機を語った。

同校の谷中緑校長(59)によるとボランティアには生徒約20人が参加。谷中校長は「普段から防災教育に力を入れている。いざという時に地域に役立てようという生徒を育てたい」と話していた。



片づけを手伝う中学生たち(8日午後3時21分、豊橋市前芝町で)＝徳澄泰樹撮影

中学生がれき撤去

豊橋で突風 「地元の力に」20人

30棟の家屋が被害を受けた学生が、がれきの撤去などボランティアを行った。参加した生徒らは「困っている人の力になれば」と、汗を流しながら、強風で割れたガラスや飛ばされた瓦などを片づけていた。

「どこから来たかわからない」がありがたかった。同市前芝町で、農作業小屋のトタン屋根や扉が吹き飛ばされた被害を受けた男性(79)は、飛び散った破片を見ながら疲れた表情で語った。

こうした住民の手伝いをしようと、近くの市立前芝中学校では同日午後、生徒らに向け、ボランティア募集のメールを配信、呼びかけた。

台風5号

東三河にも大きな爪痕

豊橋は竜巻 後片付けに追われる住民



なつたみたい。2年、本多天実さん(13)は、がれきを撤去しながら悲しい顔で涙を流した。

日頃、防災教育に力を入れている前芝中の生徒たちは、学校の呼び掛けに片づけをする生徒や卒業生を合わせると30人も集まった。

青々と青の水田は、フエンスや柵、瓦屋根などが破れ、生徒たちは足を滑らしながら拾い上げた。車がパンクしないよう路上の細かな瓦の破片も、丁寧に拾い上げた。

2年・長山藍羅さん(13)は「早く雨の生活に戻ってほしい」と願いながら汗を流した。

豊橋市前芝町などを襲った突風被害から一夜明けた8日、名古屋地方気象台の職員3人が被害状況を確認し、原因などを調査。同気象台は突風について「竜巻と推定される」と公表した。台風5号が残した被害の概要が明らかになる一方、一刻も早い復旧に向け、住民らは後片付けに追われた。

ら豊川と豊川放水路を通り、豊川方面へ抜けたとみられる。高洲、前芝、西浜、豊久崎4町の約30戸にわたって被害が発生。市災害対策本部のこれまでの調べで住宅など約30棟にのぼる。61歳の女性と65歳の男性、6歳の男子の子の3人がけがを受けた。

名古屋地方気象台は8日午後3時の職員を現地に派遣、調査後、5里圏の影響で竜巻が発生し、負傷者415人、住宅全壊40棟にのぼる大きな被害が出た。

7日後、屋根瓦のほとんどが飛ばされた前芝町の宮本則弘さん(59)宅では、近隣住民や友人らが降りしきる雨の中、屋根の修理に奔走。停電した異つ暗な室内では、妻が子どもの思い出が話まっとなアルハムを探していた。

東愛知新聞 (8/9 掲載)



がれきを運ぶ市立前芝中学生徒ら一同

8日は、住民ら共に地元市立前芝中学校生徒らがボランティアで片づけを進めていた。「通学路が別の場所にな